

私は、最初に取り組んだフィールドワークで、車も通れないような狭い街路に魅力を感じ、それらを活かしつつまちをさらに盛り上げられるように建築的操作を段階的に考えた。

一番初めに取り組んだのは、その街路たちの歴史や現状の調査である。その結果分かったのは、対象街区が昔には住宅が密集していて歩行者用の街路がたくさん伸びていたという事実。当時は街路内で子供達が遊んでいたたり大人が立ち話をしたりと、今のまちよりもずっと賑わっていたのではないかと思えた。同時に、街路の盛り上げが全体の活性化に繋がる可能性を感じた。

そこで段階的再生の第一歩として、現状を踏まえた上で新しい街路を伸ばし、まちの回遊性を向上する。道を増やすことでまちを歩きやすくし、人々が活動的になり出会いが生まれる。次に、街路内やその沿道に活動や交流の拠点となるような空間を生む。道を歩く人がふらっと立ち寄れるように、活動を建物内部にとどめずに街路にも広げる。最後に、街路を伸ばすという操作を街区外にも展開し、街区内外での人の往来を促し、活力を波及させていく。これにより対象街区にとどまらず須坂市全体の街路による盛り上げが実現できる。